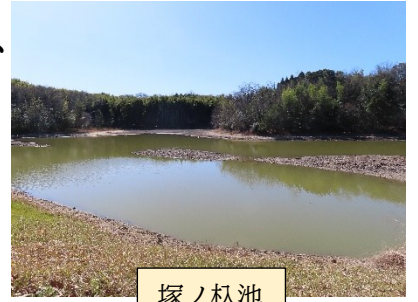


春の色

加藤 誓 (ちかい)

令和8年3月14日(土)名東区自然散策会(猪高緑地)に参加しようと、車に乗った。ガソリンが少ないのに気づき、ガソリンスタンドに行く。この前入れた時153円/Lだったのが、米国の赤鬼のご乱心の所為で183/Lと高騰していたのだ。そのためか、お客は私一人であった。

猪高緑地の集合場所に早く着いたので、塚ノ杵池へ行ってみた。水がいつもの20%程で水鳥もいなく閑散としており先程のガソリンスタンドのようであった。



塚ノ杵池

集合時間になった。去年は、みぞれの降る寒い日でスタッフの方を入れて参加者27名であったが、今年は暖かく好天もあってか45名で私も元気をもらい心の色も冬の色から春の色へと変わった。

河津桜とヤナギとの3年間の写真を比較してみた。

鮮やかな濃いピンク色の河津桜であるが、去年は咲いてもいなかったが、今年は盛りを過ぎ既に葉桜になっていた。

ヤナギも去年は寒かったためか葉をつけていない。今年は春の色といわれる「柳色」そのものの浅い黄緑色の、若い芽をつけて揺れていた。

春の色の代表「うぐいす色」はもう少し茶が入り暗くくすんだ黄緑色だが、ホーホケキョと鳴き声は聞こえるが姿は見えず。

セイヨウタンポポや二ホンタンポポに越冬キチョウが飛び交い、既に満開のスイセンの花の黄色、これも春の色である。

越冬のチョウのテングチョウを追い掛けて、撮ることが出来た。過酷な環境で羽が傷んだのか、それを表す様な赤と焦げ茶色のコントラストが素晴らしい。

紫色は、よく似ているハナダイコンとムラサキハナナ、そしてヤブスミレとも言われるタチツボスミレ、笠をかぶった踊り子達が並んだ姿に似るオドリコソウ、少し赤みかかった紫のカラスエンドウの小さな花も可愛らしい。

小さな花で目立たない薄青いフラサバソウ、そして青がはっきり目立つオオイヌノフグリ(別名星の瞳)の群生を見つけた。

イネの種籾を水につけ発芽させる頃水田に白い花をつけることから、タネツケバナと言われる花の群生も見つけた。

耕された水田の水の中に種類は知らないがカエルの緑掛かった卵を見つけた。

生け花でよく使われるサルトリイバラの赤い実、そしてツバキの赤い蕾が美しい。

アオキの雄花の蕾と雌株の赤い実。アオキに雄株と雌株があることをスタッフの方から教えてもらい大変勉強になった。

帰り道、ヒサカキの花を見つけた。スタッフの方が、「匂うでしょう!」と言われたが、花粉症のためか、よく分からなかった。

春は、生き物の精一杯のおしゃれをした色で溢れている。

私は、年々柳色からうぐいす色にはなっていくが、服装だけでも春の色にしたいものだ。



河津桜令和6年



河津桜令和7年



河津桜令和8年



ヤナギ令和6年



ヤナギ令和7年



ヤナギ令和8年



セイヨウタンポポ



ニホンタンポポ



キチョウ



ラッパスイセン



テングチョウ



ハナダイコン



ムラサキハナナ



タチツボスミレ



オドリコソウ



カラスノエンドウ



フラサバソウ



オオイヌノフグリ



タネツケバナ



カエルの卵



サルトリイバラ



ツバキ



アオキ雄花の蕾



アオキ雌株



ヒサカキの花



ヒイラギナンテン



センダンの実



スギ花粉



ジャノヒゲ



自然散策会